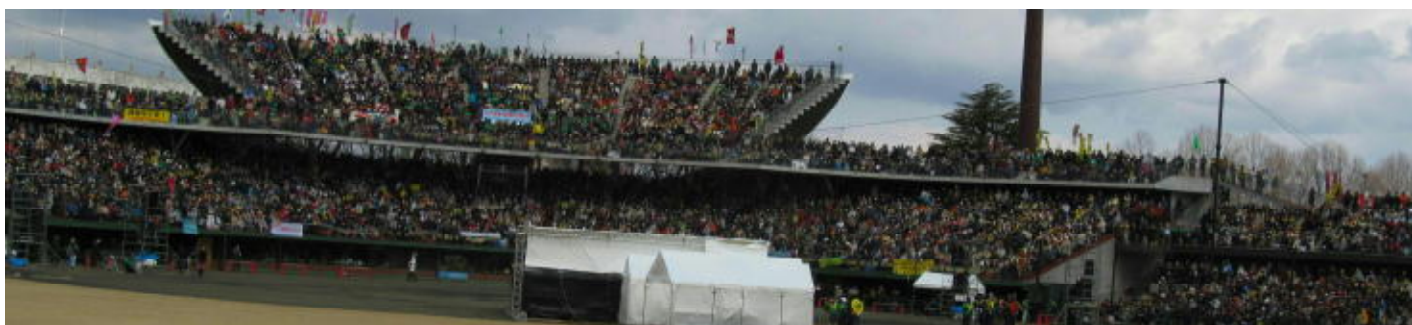


脱原発情報

原発いらない！ 3・11 福島県民大集会に1万6千人

東京電力福島第一原発のシビアアクシデント（過酷事故）から1年「原発いらない！3・11 福島県民大集会」が郡山市の開成山球場で開かれ1万6千人が集い闘いの決意を新たにしました。



脱原発と福島復興の決意を新たに…

加藤登紀子オープニングコンサートで幕を開いた集会は、実行委員長竹中福島県平和フォーラム代表が「3月11日が再び巡ってきた。現在の私たちの苦しい状況を共有しながら、今後についての思いと決意を新たにすべきと考えた。この集会が、終わりではなく、大きな変革の始まりであることを願う」と開会宣言を行った。

呼びかけ人を代表して清水修二福島大学副学長が「福島は今、目に見えない放射能という敵に包囲され、私たちはまだ魂を静めるゆとりを持つことが出来ないでいる。原発いらないの声は県民の痛恨の思いを込めた叫びであり、全国の人々に届けるのは県民の使命であり義務だ」と県民の苦悩と決意を語った。

連帯あいさつは、作家の大江健三郎さんが「倫理的な責任とは、この世界で人間的に生きることを妨げてはならないということである。原発の破滅性を放置しておいて、私たちは将来世代にたいする倫理的責任をとれない」と訴えた。



宮城県参加者の旗

続いて6人の県民が登壇しそれぞれの立場から一年間の経験と心情を語った。

警戒区域にある富岡高校生の鈴木美保さんは「原発がなければ津波や倒壊の被害にあった方々を助けることができた。それを思うと怒り悲しみでいっぱい。人の命も守れないで電力とか経済とかを言っている場合ではない」と現状を厳しく批判した。

同じく避難生活を送り、戦後の引き揚げ経験を持つ浪江町の橘柳子さんは「私は国策により2度も棄民にされる恐怖を体験した。未来に生きる子どもたちのことを考え、脱原発・反原発を追求し、その課題の実現に生きていくことが唯一の希望かもしれない」と語りかけた。

「原発はいらない！私たちは今、全国民に向け高らかに宣言する。人々や地域から未来を奪う放射能災害を二度とこの国土に招いてはならない」とする集会宣言を採択しデモ行進に入った。

3.11 原発震災から一年。新たな決意を持って闘うことの必要性を教えられた集会であった。

富岡町の一時帰宅同行記

原発震災がもたらした10km圏内の現状

3月15日、福島第一原発から10*。圏内にある富岡町の一時帰宅が実施された。それに同行した3人から率直う感想を寄せてもらった。



富岡町の桜の名所夜ノ森公園



破壊尽くされたJR富岡駅とホーム



夜ノ森公園に積み上げられた廃棄物



富岡町の中心部6号国道沿線



破壊したままのパチンコ店

石丸小四郎氏宅

一時帰宅同行記

いわき市 西尾 紀平

3月15日(木)、内郷事務所8時出発。広野町を經由し、榑葉町Jヴィレッジで検問を受け(第一原発から20km圏)榑葉町道の駅(9時)にて線量計、使い捨てスーツ、マスク、靴カバー、手袋、など装着し(13時10分迄帰る事と説明を受け)9時40分出発、榑葉町役場道路脇(0.23マイクロ)第二原発6号入口(0.7~1.0マイクロ)10時20分富岡町石丸宅着、ログハウス北側(11.0マイクロ)玄関側雨樋下(50.0マイクロ)母屋玄関(5.6マイクロ)と線量はかなりのバラ付きが見られた。

ログハウスはかなり風雨にさらされ痛みが目立ち、庭の草木は赤茶色の風景、途中の風景も榑葉、富岡だけが、田・畑も赤茶色の雑草だけが目にはいる。民家の屋根は殆ど瓦が落ち、庭も玄関も綺麗に整理整頓された家は一軒も無く、主の住まない町並みは(たかが1年だが)まさにゴーストタウンそのものであった。

桜で有名な夜ノ森桜並木(11.69マイクロ)関友之宅玄関脇(17.0マイクロ)夜ノ森公園内の広場には黒いビニールシート

に覆われた徐染した廃棄物が山積み。「フェンスにはゴミ類は捨てないでお持ち帰り下さい」との看板が皮肉に見えた。

帰りに富岡町駅前の津波の直撃を受けた駅舎、事務所、建物、車が無残にも2011.3.11そのままの光景が(富岡駅前地上0.43マイクロ)空しく感じられた。

11時30分榑葉町道の駅へ帰着(一時立ち寄りの測定した累積放射線量6マイクロ)との通知を受けた。

夜ノ森では牛1頭が私達を眺め、富岡町トムトム南側では仲間とはぐれたダチョウ1羽が寂しそうに私達をながめていた。

改めて気付かされた放射能の残酷さ

いわき市 斉藤 春光

3月15日富岡町に行ってきた。同町は福島第一原発から10*。圏内に存在する。目的地に向かう途中多くの車両が走っていた。

それらは、工事用の作業車や圏内に一時帰宅する住民の自家用車や第二原発の作業員を乗せたバスであった。富岡町の知人宅、そして夜ノ森公園に立ち寄った。

住居の庭内の数カ所で放射線量を計測したところ、計測値は大方15マイクロ超を示し

高いところは20マイクロ超であった。

夜ノ森公園は桜の名所あり桜の季節には屋台が建ち並び舞台も出現するなど例年花見客で賑わうところである。現在ここは黒い袋がうず高く積み、多くの面積を占領していた。

恐らく剥がした表土などの高線量廃棄物だと思った。

私に変化を意識できるのはこれだけである。他には見た目には何らの変化を発見することが出来ないのである。確かに数値は高い値を示しているので危険であるが、その危険性を人間の五感で感じ取ることが出来ないため諦めることが困難なのである。ここに放射能の残酷性に改めて思い至った。

津波の被害がそのままに

その他、富岡への道すがら牛やダチョウ達と出会いもあった。駅へ向かう途中で海岸の近くにも立ち寄ったが其処は津波の寄せ波により陸地に流されそして取り残された船が数隻そのままになっている姿があった。又破壊された住宅や駅舎・ビル・商店・旅館・至る所で地盤沈下や地割れなどで寸断された道路など、全く津波の被害がそのままになっていた。又屋根にはブルーシートがかけられている家が数多く見る事が出来た。

町当局が業者に施工を依頼してのことだそうである。彼らの被曝線量管理は大丈夫なの

かと心配なところである。

自然の荒々しさ工作物の脆さ放射能の恐ろしさ…

いわき市 鈴木 彪

3.11原発震災から1年、人の住むいわき市南部から無人と化した双葉郡に入った。

枯れた蔦状の雑草が道路に入り込み、瓦屋根の上のブルーシートの多さが目に付き、生気が失われた町の佇まいにただ見入った。

友人宅に入ってまず驚いたのは、樹木に絡まった枯れた夏草が庭全体を覆い幽霊屋敷のようなっていることだ。庭はモグラが動き回り地面が盛り上がり縦横に走り冬でも青々としていた苔がすっかり消え去っている。イノシシの仕業なのか地面が馬耕したようにいたる所めくれ裏返しになっていてそのパワーに驚く。「お盆のような塊が一杯あるなー」と思ってよく見たら牛の糞だ。

家は地震で壊された部分から傷みが広がりを重ねるごと傷口が広がっている感じた。

「人の住まない家は急速に朽ち果てるのだなー」と改めて思った。

自然が持つ荒々しさ、人が造った工作物の脆さ、目にも見えない、臭いもしない、触れても分からない放射能の底知れない恐ろしさを改めて強く感じた一時帰宅同行だった。

3・16福島原発告訴団結成 福島原発事故の責任をただそう!

去る3月16日、いわき市において、福島原発事故の責任をただそう! 3・16福島原発告訴団結成集会が開催され「福島原発告訴団」が結成された。

この団の**目的**は「福島第一原発事故により被害を受けた住民で構成。被害をもたらした東京電力及び国の原子力委員会、原子力安全委員会、経済産業省原子力安全・保安院などの責任者を刑事告訴する」ことである。**告訴とは**、犯罪の被害者が、捜査機関に対して犯罪の事実を告発し、犯人の処罰を求める意志表示である。**告訴手順**は「告訴を決意→告訴団に入団→自分が受けた被害について陳述書を書く(事例別途)→団長に送付→共通告訴状の集約→目標6月11日(月)→福島地方検察庁へ提出」の流れになる。



活動の進め方について講演する河合弘之弁護士

この団をより大きなものにするため県内各地で学習会や呼びかけを行う。

役員は、・団長 武藤類子(田村市)・副団長 佐藤和良(いわき市) 石丸小四郎(双葉郡)・幹事・会計・監事で構成される。原発事故から1年、事故を起こし重大な禍根を残した責任を誰も取らず“加害者天国、被害者地獄”の現状を決して許してならず徹底した闘いが求められている。

国の責任による原発被災者への健康手帳交付、健康保障を求める 第4回政府開催される!

3月23日、衆議院第2議員会館において第4回政府交渉が行われた。

冒頭、いわき市で避難生活を送る遠藤陽子さん(富岡町)が、原発事故から1年の避難生活の中で次々と犠牲者が出ている現状を報告し、政府に真摯な対応と早期解決の必要性を迫った。

交渉課題は以下の4点であった。

1. 福島復興再生特別措置法案の問題点
2. 18歳以下の医療無料化の支援見送りの撤回、子どもの健康確保、医療保障の充実と実行
3. 被災者への健康手帳交付と国の責任による健康と生活保障
4. 県民健康管理調査を国の責任による健康保障の一環とすること



政府復興庁、厚生労働省、文科省の各係官

原発震災関連死が福島県内で621人にもなり、要求項目が喫緊の課題になっていることを迫ると共に、これまで原子力政策を推進してきた国の社会的責任を自覚し脱原発を明確にすることを求めた。